



7.19国会集會に「オリンピック中止 いのち暮らし守れ」を掲げる中央本部事務局員



No. 566

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

編集発行人 田中幹夫

〒113-0034 東京都

文京区湯島2-4-4

平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461

FAX 03(5842)6462

E-mail

chian@bz03.plala.or.jp

頒価 50円

8・15不戦の誓い新たに 総選挙に勝利し、命守る政治を

主な記事

- オンライン三役会議を開催 …………… 2
- 東京都議選から見えてきた総選挙に向けた課題 …………… 3
- 顕彰碑／山本虎雄・顕彰碑建立 …………… 5
- 抵抗の群像／壺井繁治 …………… 6
- 同盟文芸／短歌・俳句・川柳 …………… 7

東京都の新型コロナウイルスの新規感染者は7月31日、4058人と過去最多。初の4千人台となり、感染者の70%は30代以下です。神奈川県1580人、埼玉県1036人、千葉県792人と首都圏3県と全国の12342人はともに過去最多。全国で1万人を越えたのは3日連続です。10都府県で過去最多を更新しました。

東京では「連日、1日の感染者の数が過去最多を更新し、医療も極めて切迫した状態だ。人出を減らさないと感染の拡大は止められない」「感染の急拡大とともに自宅で療養している人も増え続けていて、31日時点で10392人と初めて1万人を超え、2日連続で過去最多を更新」。厚労省・専門家からは「通常であれば助かる命も助からない状況になる」と指摘されています。

政府は東京都、沖縄県に続いて7月30日、緊急事態宣言を神奈川県、埼玉県、千葉県と大阪府に再発令しました。

菅首相は五輪中止を問われ「人流も減っている」と楽観論を述べ、命守る責任を放棄しています。

五輪・パラリンピックの即中止を強く求めます。

同盟員のみなさん、8月は、ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下、終戦記念日など平和の誓いを新たにする月です。

新型コロナウイルスの感染防止対策に万全を期しつつ、「市民と野党の共同」を強め、総選挙勝利・政権交代は、「同盟の要求実現」の闘いです。先頭に立ってがんばろうではありませんか。

抵抗の群像



晴れたり曇ったりを生きた

つばいしげじ
壺井繁治

壺井繁治は1897(明治30)

年、香川県小豆郡苗羽村堀越(現小豆島町)に生まれた。生家は村一番の自作農で網元を兼業していた。尋常小学校の一級下に(のちに活動した)黒島伝治がいた。

卒業後、海軍兵学校への進学を条件に大阪の上宮中学校に進んで受験したが、猛勉強で近視眼になり、そのために不合格となった。

1917年、志望していた早稲田大学政経学部に入學。政経科から英文科に移ったため実家から学費を止められ「大正日日新聞」の給費生となった。このころ活字になった最初の詩「こわれたる笛」を発表した。その「大正日日新聞」が「大本教」に買収されたため給費も止まりやむなく退学となった。その後、姫路歩兵連隊に入隊したが、入隊兵士歓迎会で反戦演説を行い、さらに日記の内容が危険

思想の持ち主と見られて除隊処分にあった。

香川県善通寺の尽誠中学の英語教師となるが、東京へ出奔したため、家とは断絶関係になった。

大学の先輩、白島省吾を訪問したのは22年のことだった。彼の推せんで「日本詩人」に短詩数編を発表した。また個人雑誌「出発」を創刊した。このことが文学的生涯で大きな意味を持つ岡本潤との出会いとなった。

23年、萩原恭次郎らと『赤と黒』を創刊した。「詩とは爆弾である!」という有名なアナキズムの宣言文が雑誌の表紙に刷られた。かねてから文通中の岩井栄と結婚したのは25年だった。

そのころアナキズムとマルキシズムの対立抗争が激しくなり、黒色青年連盟に襲撃された繁治は3カ月の重傷を負った。この事件で

繁治はアナキズムと訣別した。

三好十郎らと左翼芸術同盟を結成して、以後、繁治は左翼運動に傾斜していった。日本共産党弾圧3・15事件の10日後にナツプが結成され、これに参加。その後、数次の検挙と拘留を受けた。

最初の小説「踏みつけられる麦」を『戦旗』に発表したのは29年だった。ナツプ出版部にあたる戦旗社に入り、経営に没頭して5年間は詩作の空白期間を生んだ。

30年、治安維持法違反容疑で起訴され豊多摩刑務所に入獄。翌年出所した。日本プロレタリア作家同盟の第3回大会で中央委員に選出され、宮本顕治の推薦で日本共産党に入党した。32年の弾圧で再入獄。2年後に共産主義運動から離脱する旨の2度目の上申書を書いて「転向」し、保釈となった。

戦後の8月15日は、「戦争という重たい荷物をやつと肩から降ろしたという消極的開放感を得るのみだった」という。

敗戦後、まもなく再入党した。戦後の繁治の活動は、新日本文学会の設立、詩人として作品活動と

詩人会議の設立・運営、さらに評論活動や後進の指導など多岐にわたって活躍した。

伴侶の壺井栄が亡くなったのは67年だった。その悲しみにたじろがず、生きて活動したことは心ならずも転向という形の屈辱を植えつけられたようだ。「女房は私の挫折と敗北について直接非難めいたことを一言も言わなかったけれども、彼女としては割り切れぬ気持ちなどがどこまでもつきままとつていると見え、私のこうした出獄のしかたを喜んでるようすは見えなかった。ただ黙っていること、それが私には一番つらかった」ことを生涯抱き続けたようである。

1975年、マクログロブリン血症により死去。76歳だった。

壺井繁治の詩碑は、故郷の苗羽小学校の堀越小学校分教場跡に建立してある。

石は 億万年を 黙って
暮らしてつづけた

その間に 空は 晴れたり
曇ったりした

『讃岐民主化の先駆者たち』より
(香川県本部事務局局長・田中和夫)